

平成27年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 生徒に学力を身につけさせるため、ICT機器の活用や教員間の学び合いを通して授業内容の充実に努めるとともに、家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と論理的思考力の育成に努める。	① ICT機器を積極的に活用し、工夫された授業を展開している。	教務課 各教科	全教室にプロジェクターが設置され、多くの授業で活用されるようになった。	【努力指標】(教員) 全職員がICT機器を活用し、工夫された授業を展開する。	ICT機器を A よく使う(週5回以上) B 時々使う(週1~2回程度) C 使ったことがある(月1回程度) D 使ったことがない(0回)	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
			ICT機器の活用は広まりをみせているものの、生徒への学習効果について検証する必要がある。	【満足度指標】(生徒) ICT機器の活用により、生徒が授業に主体的に取り組むようになり、学習効果が高まった。	ICT機器の活用により主体的に取り組む、学習効果が高まると感じている生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。  評価項目を加える。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場を設定している。	教務課 各教科	授業における言語活動の場数が少なく、生徒の思考力、表現力の向上に結びついていない。	【努力指標】(教員) 各授業で生徒の発表の場面や教師とのやりとりの場数を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図る。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面を A 多く設定している B 時々設定している C あまり設定しない D 全く設定しない	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	昨年度は1年生は47.0%(D評価)、2年生は84.4%(A評価)であった。1年生は課題の取組を重視したことから学習時間が低調な結果をなったが、質の向上とともに量の充実も図る必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
③ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年 各教科	朝学習としての10分間は定着しており、集中して取り組む姿勢、内容の理解と定着、発展的学習へのつながりを意識して取り組む必要がある。	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組む、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。  評価内容を変更する。	

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① 時期に応じたクラス全体の指導や個人面談などをきめ細かにを行い、生徒の進路意識を高め早期に目標を設定させる。設定した目標実現のため、自ら学習時間を確保するよう意識付けを行う。	進路指導課 学年 教科	生徒の進路に対する意識は高くなく、大学に関する知識も多くない。また、志望校と現在の学力および学習習慣がかみ合っていない。生徒の進路意識を高める取組を時期に応じて適切に行い、早期に一段上の進路目標を持たせ、進路実現に主体的に取り組ませる必要がある。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談、学習のアドバイスなどの進路指導により学習意欲が高まり、多くの生徒が高い進路志望を持つようになる。	(1年)進路指導により、目標とする大学が (2年)進路指導により、志望校が A 決まっている B ほぼ決まっている C あまり決まっていない D 決まっていない	A+Bが70%未満の場合は、改善策を検討	7月,12月に実施  生徒による評価に変更
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することで、教員全体の相互理解を深め、生徒に高みを目指した1ランク上の志望をもたせ、学力の向上と進路実現を図る。	進路指導課 学年 教科	1月実施の校外模試において過去2年間に比べ、平均点偏差値が高くなるとともに上位層も増えた。	【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につける。	1,2年生の学力試験で各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
			昨年度、国公立合格者数と難関私立大学合格者数が、どちらも目標値に達することができなかった。センター試験に対応した学力とともに、個別試験に対応した学力の養成が、望まれる。	【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学を目標とした生徒の育成と、それに見合った学力をつける。	1,2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
				【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学への合格者を増やす。	国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
					難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 5人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、喜びや感動を共有できる教育活動を展開し、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	昨年度は、保護者が学校行事やPTA活動で来校した回数の平均が3.1回であった。また、4回以上来校した保護者は25%と低い値である。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に積極的に参加している。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	A+Bが70%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、本校のよさ生徒の活動の成果をホームページ上に積極的に掲載する。	総務課	各課、学年等から情報が十分に集約され、ホームページ上に掲載されているとは言えない。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報が集約され、速やかにホームページ上に掲載される。	ホームページ上の更新回数が昨年度の A 2.0倍以上 B 1.5倍以上 C 1.0倍以上 D 1.0倍未満	Dの場合は改善策を検討	年度末に評価する。
	③ 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	生徒課	昨年度の部活動加入率は84%(C判定)であり、一昨年度の86.7%より若干減少している。依然として未加入生徒も存在していることから、これらの生徒に対して適切な指導が必要である。	【成果指標】(生徒) 多くの生徒が部活動に加入し、活発に活動している。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。 ※加入状況調査
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催についての内容を検討し、本校の外部に対する外部に対する情報発信力を高める。	生徒課	昨年度1日(模擬店等)の外部からの入場者数は659人であり、年々上昇傾向にある。また、2日目の音楽堂での開催には345人の来場者があった。しかし、今年度は日月開催ということもあり、1日目の内容を充実させることと、2日目の開催日と内容を早めに保護者等に連絡、地域への広報活動等や内容を充実させることにより来場者数の増加を図る。	【成果指標】(保護者) 地域への広報活動と、内容の充実により、2日間の来場者数が増加した。	1日目の来場者数が A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 400名未満	Cの場合は改善策を検討	9月に評価する。
	⑤ 本の読み聞かせ、本の紹介カード展示などの図書委員会活動を地域と連携することでチャレンジ精神の涵養を図る。	図書課	地域の保育園児や放課後子ども教室の児童を対象とした「本の読み聞かせ」、市立図書館での本の紹介カードやポスターの展示等、地域と連携した活動は評価も高く、生徒の自信とやる気につながっている。	【成果指標】(生徒) 地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6回以上 B 年間5回 C 年間4回 D 年間4回未満	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことができ、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	昨年度の生徒の自己評価では「挨拶をすることができた」が71.2%と前年度よりも10ポイント近く上がった。朝の挨拶運動や日ごろから教師がわが積極的に挨拶をした結果であると考えられる。教師側からの挨拶は有効であるので継続する必要がある。また、身なりについても教師側の共通した指導で効果が表れると考えられる。	【努力指標】(生徒) 毎日、自ら身なりを整えることと、積極的に大きな声で挨拶をする生徒が増えている。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Aが80%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	自転車事故の件数が一昨年18件、昨年15件と若干減少している。自転車の左側通行を定めた改正道路交通法の周知を図り、ルールを遵守する意識を徹底していく必要がある。昨年度「よく遵守している」と答えた生徒は65.9%である。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えている。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。 情報の収集・共有を密に行い、困難を抱えている生徒に対して早期に対応・支援する。	相談室 生徒課 各学年	生徒は落ちついた生活を送っているが、さまざまな困難を抱えた生徒がいると同時に、ネット等の利用で生徒同士の人間関係が見えにくくなっており、全職員が個々の生徒の状況を把握し、生徒の変化に早期に対応する必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかり把握し適切な対処をしている。	生徒の変化に対して A 素早く対処し、解決に至った B 素早く察知し、対応することができた C 素早い対処ができず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	A+Bが90%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 清掃・ゴミ分別・節電・節水等の環境にやさしい行動を意識して取り組める生徒の育成を図る。	保健環境課	いしかわ学校版環境ISO認定校として、ゴミの分別・節電・節水に取り組むことで生徒の環境に対する意識は徐々に高まっている。ゴミの分別について意識は高まったがゴミ箱の現状と一致していない。	【努力指標】(生徒) 学校においてゴミの分別を心がけ実践している。	学校版環境ISO意識調査でゴミの分別を心がけ実践している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	全学年 7月、12月に実施
	⑤ 図書館報、図書便りによる図書案内や各学年団と連携した朝読書、ビブリオバトル、一斉読書などの読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課 各学年	図書館報と図書便りを計9回発行し、学年と連携しての一斉読書指導や1年生には朝読書、ビブリオバトルを実施しているが、読書習慣がなかなか身に付かず、貸し出し数も生徒一人あたり3.9冊と伸び悩んだ。図書委員会活動の充実と総合的な学習の時間等での図書館利用を促していく必要がある。	【成果指標】(生徒) 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増加している。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 6.0冊以上←7.0冊以上 B 5.0冊以上←6.0冊以上 C 4.0冊以上←5.0冊以上 D 4.0冊未満←5.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑥ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。	生徒課 各学年	昨年度はボランティア活動に自発的に参加した生徒は13.8%であった。ボランティア実績と照らすと、自発的参加者は40%以上になる。事前指導を充実させながら、地域の方との結びつきを強める参加形態を見直す必要がある。	【成果指標】(生徒) 学校全体や部として取り組んだボランティア活動に、自発的に参加する生徒が増えている。	ボランティア活動に、 A 自発的に複数回参加した B 自発的に参加した C 参加した D 参加しなかった	A+Bが50%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。  評価内容を変更する。